



	事業遅延の理由 —
	客観的評価指標に対応する事後評価項目 事業の整備効果 ①防災上の要対策箇所の回避 ・ 防災上の要対策箇所を回避したルートが確保され、大規模な迂回の回避により経済活動等の確実性及び円滑性が向上 ②道路交通の安全性向上 ・ 死傷事故の減少や旅行速度の向上など道路交通の安全性及び円滑性が向上 ③八雲町中心市街地への利便性向上 ・ 熊石地域やせたな町大成区など日本海側から八雲町中心市街地及び交通結節点へのアクセス性が向上し、住民生活及び経済活動の利便性並びに救急搬送の迅速性が向上 ④地域産業の活性化 ・ 水産品等の輸送の安全性及び円滑性が向上し、「熊石地域マリンビジョン計画」を円滑に推進するほか、地熱開発構想など地域産業の活性化に貢献
	その他評価すべきと判断した項目 特になし
事業環境	環境影響評価に対応する項目 環境影響評価の対象外事業である。 その他評価すべきと判断した項目 特になし
	事業評価監視委員会の意見 当委員会に提出された事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。
	事業を巡る社会経済情勢等の変化 ●人口・産業等の社会経済情勢の変化（対象地域：八雲町） ・ 人口は、部分開通前約22.3千人（H7）→開通後約17.3千人（H27）となっている。（国勢調査） ・ 漁業就業者1人当たり漁獲量は、部分開通前約39t（H7）→開通後約43t（H27）となっている。（北海道水産現勢）
	今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 雲石道路の整備により、落石、地すべり、雪崩等の現道課題の解消を図り、道路の安全な通行の確保など、当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものとする。 なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。
	計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 現道の防災点検箇所や線形不良等の隘路状況及び地域の道路利用の実態に鑑み、重点的に整備が必要となる箇所を把握し事業を進めることができた。 今後も、事業の実施においては、関係機関とも綿密に連携し進めていくことが重要である。
	特記事項 特になし

※ 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。

※ 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。